

標題 省力化に向けた農業用ドローン勉強会を開催

(ダイジェスト)

3月7日(火)、出雲市の土地利用型農業者を対象に農業用ドローンの勉強会を開催しました。この勉強会は、作業の省力化を目的にドローンの導入促進を図るため、「導入事例」「機体紹介」「導入までの流れ」「事業紹介」の内容で開催しました。その後の実演会では実際に最新機体を飛ばして、ドローンの性能や作業性について見学を行いました。

出雲市では水稻を中心に麦、大豆、小豆、そばなど土地利用型作物の栽培が行われています。近年、農業者の減少・高齢化、経営面積の拡大などが要因で農薬・肥料散布など作業労力の負担が大きくなっています。そこで、作業の省力化を目的に、近年普及が進んでいる農業用ドローンの勉強会及び、斐川町の圃場にて最新機体である DJI 社製の T-30 の実演会を行ったところ、市内から51名の参加がありました。

勉強会では、まず、農事組合法人みんな営農組合から、近隣経営体とのドローンの共同利用について講演いただきました。ドローンを活用することにより、薬剤散布及び緑肥の播種では作業時間が大幅に短縮となることや、水稻においては、一発肥料から追肥体系への変更により資材代の削減が可能となった事例の紹介がありました。

次に、ドローン販売企業より、機体の紹介、全国各地での活用方法、ライセンス取得のための教習、保険加入、年次経費などについて説明いただきました。参加者からは、自働運転時の圃場登録方法や飛行可能エリアなど様々な質問がありました。

最後に、出雲市農林水産部農業振興課よりドローン導入に活用できる事業について説明がありました。

その後、斐川町の圃場で実演会が行われ、ドローン性能や作業性について説明がありました。参加者からは、早速導入を検討したいという声が聞かれ、ドローンの有効性について理解促進ができたと感じました。

今後は、農薬・肥料散布だけでなく直播技術の確立により、春の田植え作業の労力負担軽減を図り、ドローン活用の幅を広げることで、更なる省力化及びランニングコストの削減を目指したいと考えています。



【勉強会の様子】



【実演会の様子】